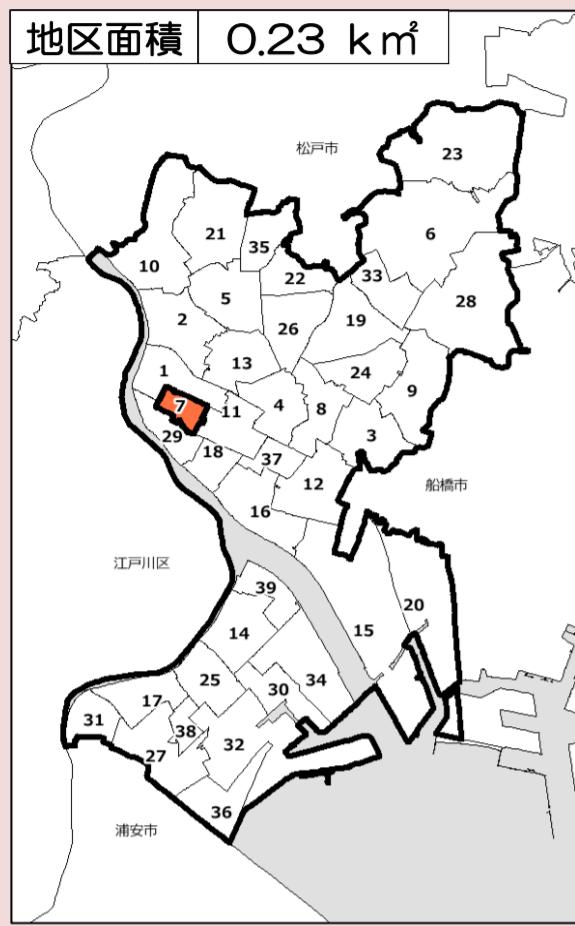


7 宮田小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

宮田小学校区は市の中央より西部に位置しています。

◆地形・土地利用

地形は、氾濫平野で構成されています。地区的北側は商業地域となっており、JR総武線の市川駅があり、駅周辺には市役所をはじめとする行政機関・業務施設・商業施設が立地しています。

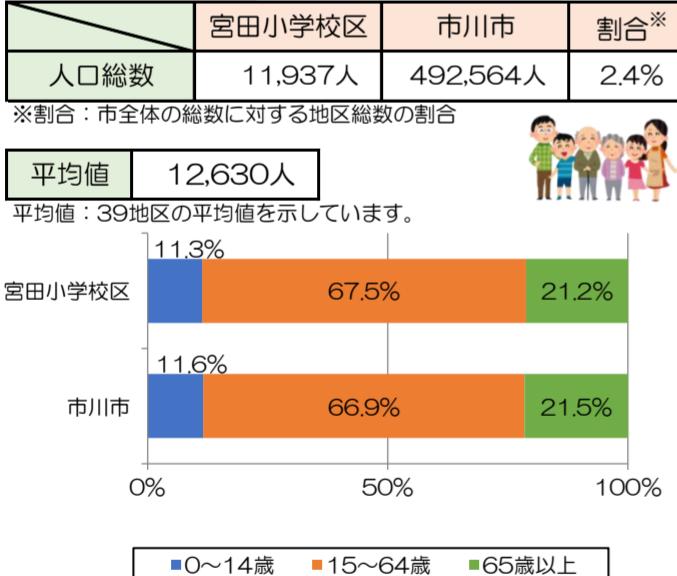
◆都市基盤

地区内の市川駅周辺は、市街地再開発事業により整備されています。また、地区的北側にはJR総武線が通っており、市川駅があります。地区内には、JR市川駅行きの京成バスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

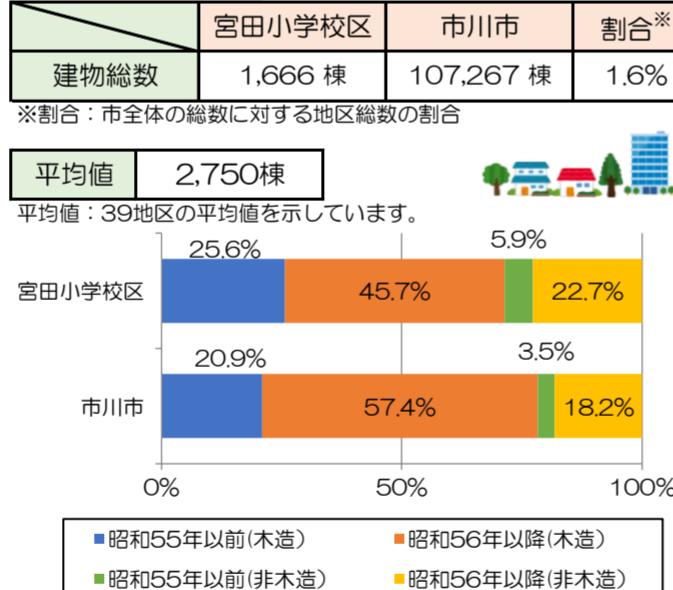
年齢別割合



地区的人口は、全地区の平均人口よりやや少ないです。市全体と比較すると年齢構成は似た割合となっています。

◆建物

構造別割合



地区的建物は平均より少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が低いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

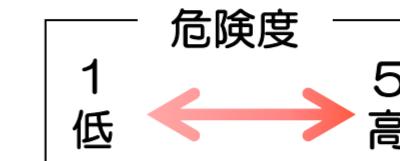
(4) 災害リスク評価

市川市防災カルテ < 宮田小学校区 >

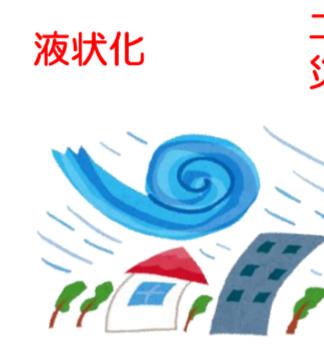
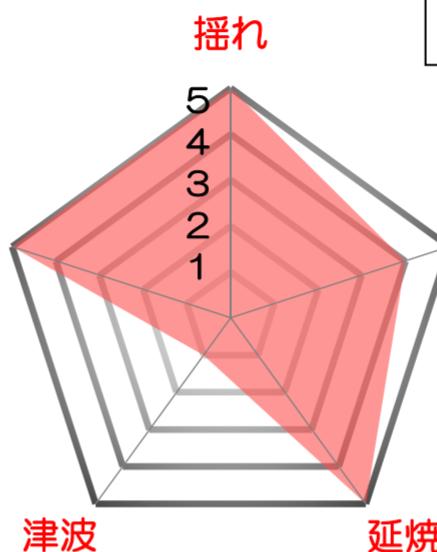
災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区的現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）

地震

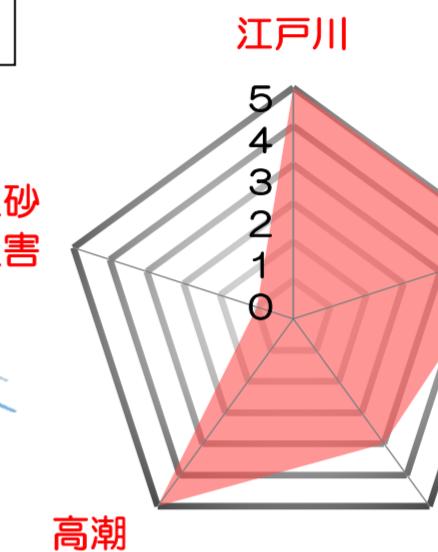


避難者

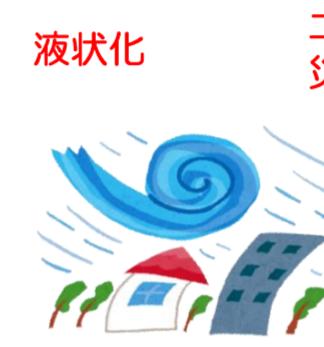


液状化

風水害



真間川水系



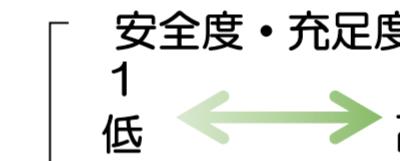
高潮

内水氾濫

◆災害に対する強み（プラス面）

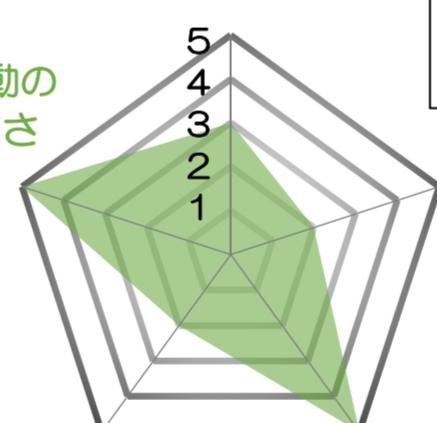
まちの安全性

地域の防災力

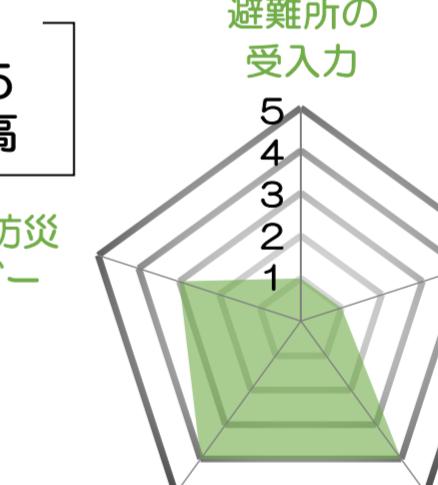


避難経路

消防活動のしやすさ



未来の防災リーダー



避難場所の受入力

延焼のしにくさ

避難場所等の近さ



防災組織力

◆評価

宮田小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、揺れ、液状化、延焼による危険性が高く、避難者が多く発生する傾向にあります。風水害については、近くに江戸川が流れていることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高く、真間川水系の氾濫、高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難場所等の近さ、消防活動のしやすさは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能道路の充足度、延焼のしにくさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力、防災活動力は高い傾向にあるものの、避難所の受入力、避難場所の受入力は低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
宮田小学校	-		

◆避難場所

名称
宮田小学校

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	新田保育園		医療救護所	なし
			関連施設	なし



(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

想定項目		宮田小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	8.1%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	16.2%	11.8%
	焼失棟数の割合	17.9%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	0.5%	0.4%
	避難者の割合	25.2%	20.0%



◆風水害（被害を受ける割合）

想定項目		宮田小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	100.0%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	100.0%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	89.1%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	100.0%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合が低く、地震の揺れが特に強いこともあります。また、建物被害は多い傾向となっています。また、人的被害については、負傷者と避難者が市全体よりやや多くなっています。

一方で、風水害については、近くに江戸川が流れていることから、江戸川の氾濫による影響が大きく、また真間川水系の氾濫、内水氾濫、高潮の浸水による影響も受け、市全体と比較して、浸水棟数が多くなっています。

(7) 防災上の課題

市川市防災カルテ <

宮田小学校区

>

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、液状化や延焼による危険性が非常に高いことから、耐震対策や延焼対策、初期消火対策、ライフライン途絶に備え、家庭での備蓄対策が重要です。
風水害	近くに江戸川が流れていることから、河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。また、延焼遮断帯となる空地や耐火建築物の占める割合が低いことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区には、避難所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所が混雑する可能性があり、在宅避難ができるよう自宅の備えを整えることが重要です。また、避難場所の充足度が低いことから、他の避難場所や広域避難場所の確認が重要です。

(8) 防災対策の方向性

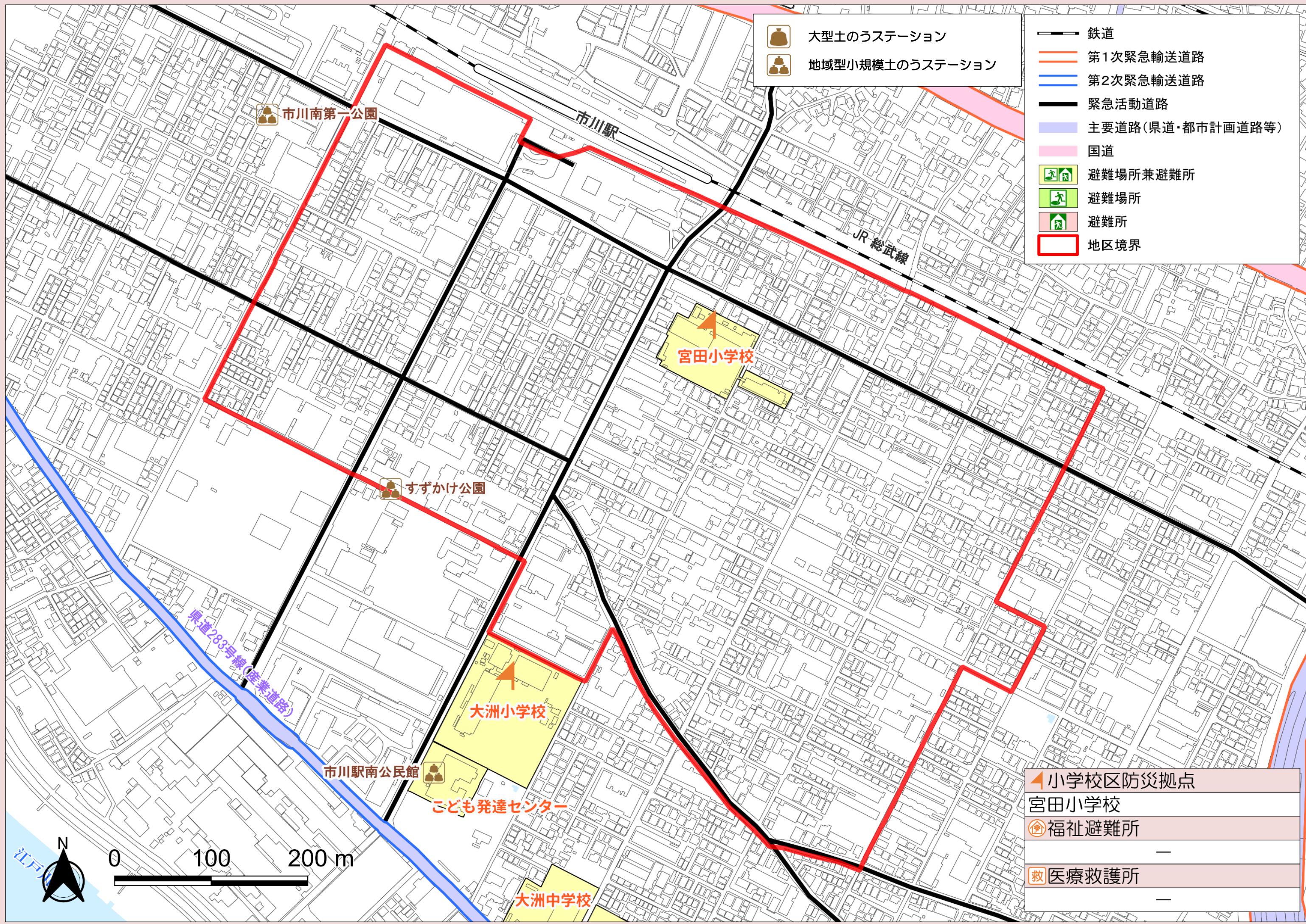
項目	取組の方向性
地域の取組	<p>地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通行可能な道路の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用し、ブロック塀等の倒壊を防ぐことが効果的です。</p> <p>災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。</p> <p>地震が発生すると避難者が多く発生することから、近隣含め避難所の充足度が低いため、在宅避難の準備や指定避難所以外の避難先の確保について、あらかじめ地区の中で情報共有を行うことが重要です。</p>
個人の取組	<p>地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置を進めるとともに、家具の固定など自宅（家庭）の防災性を向上させることができます。</p> <p>一方、風水害に対する備えとしては、同じく「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。</p> <p>避難経路の確保ができない可能性が考えられることから、まちあるき等を通して避難経路についてあらかじめ複数確認しておくことが必要です。</p>

(9) 防災マップ

市川市防災カルテ <

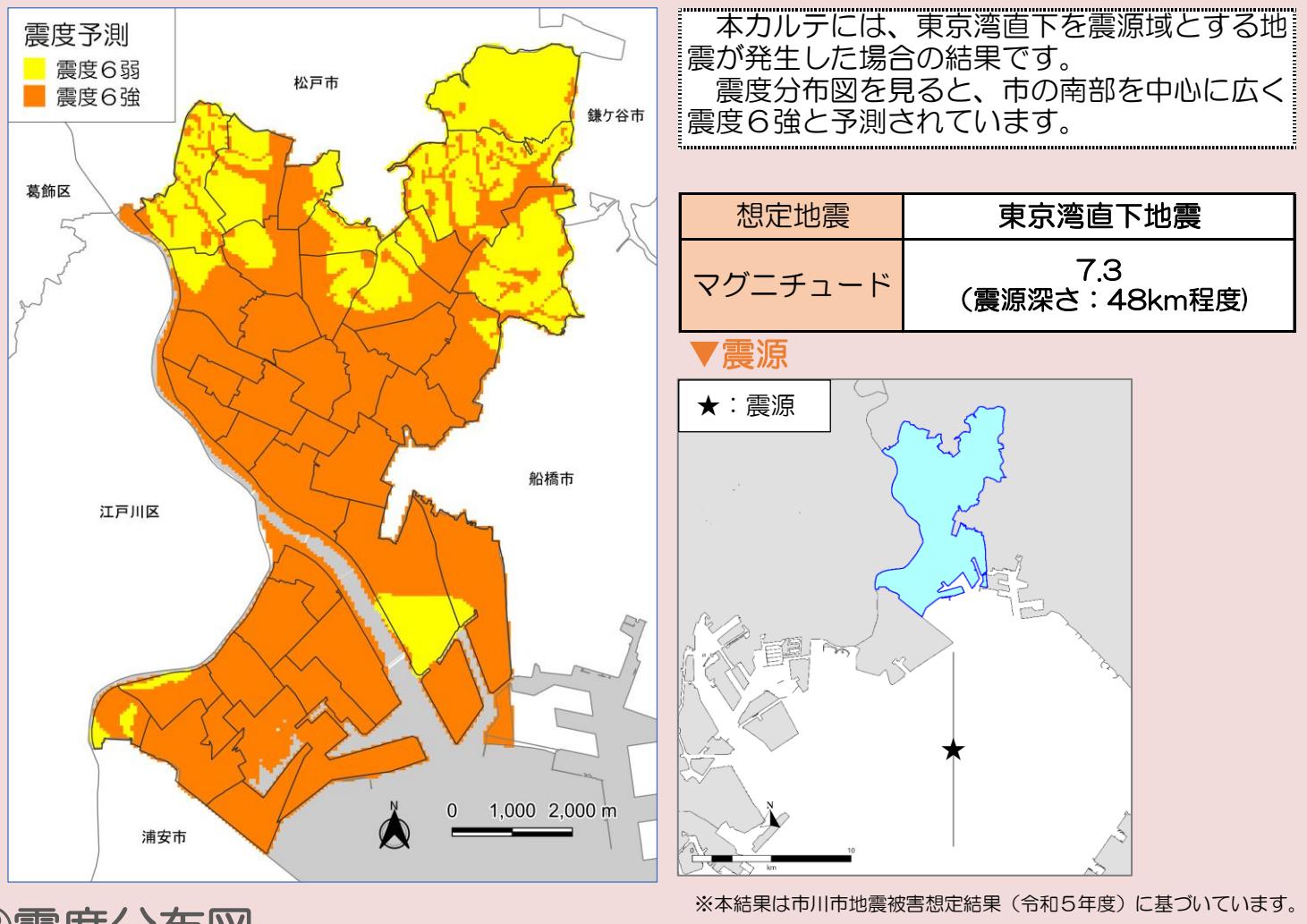
宮田小学校区

>

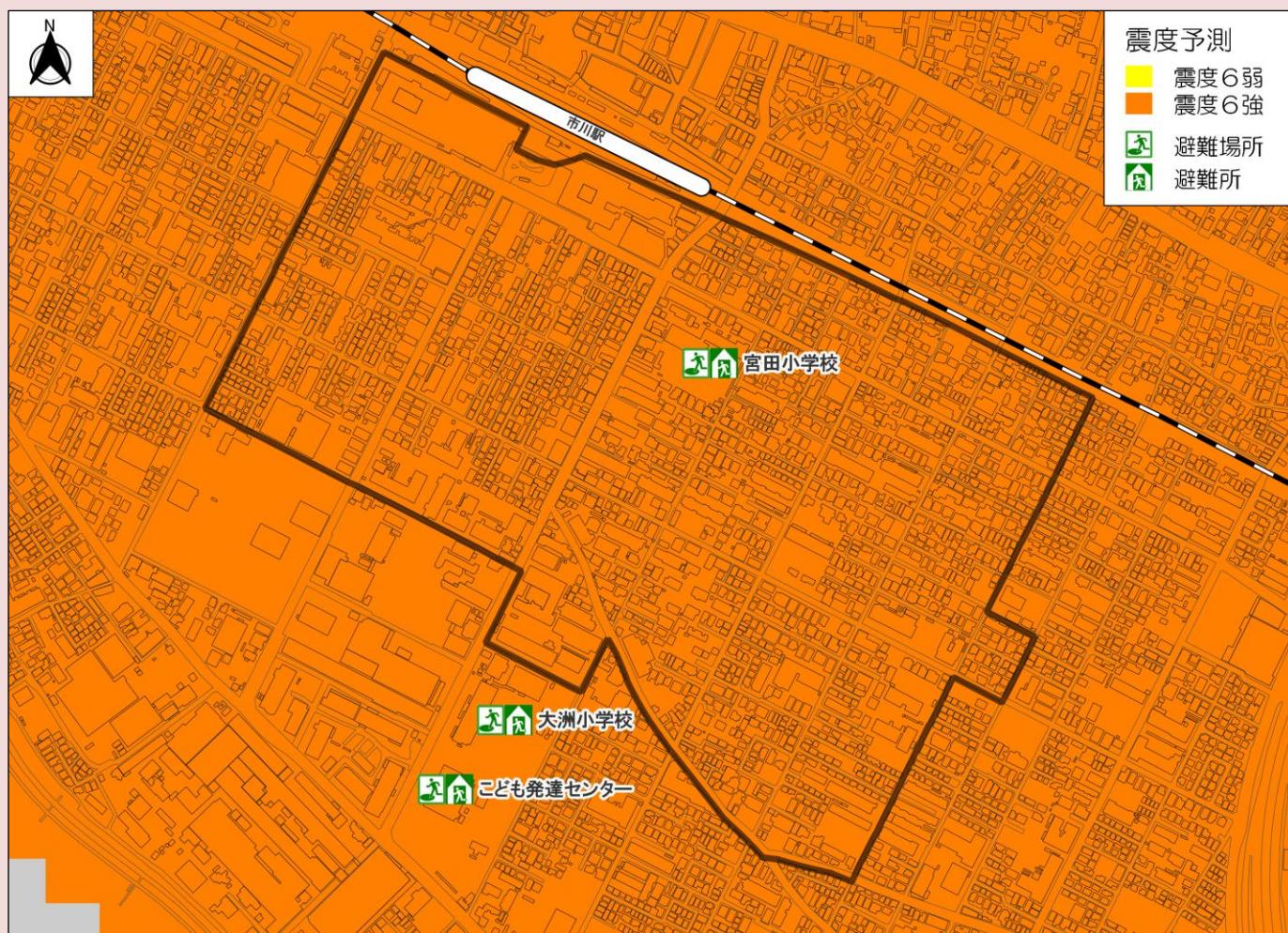


(10) 基礎資料

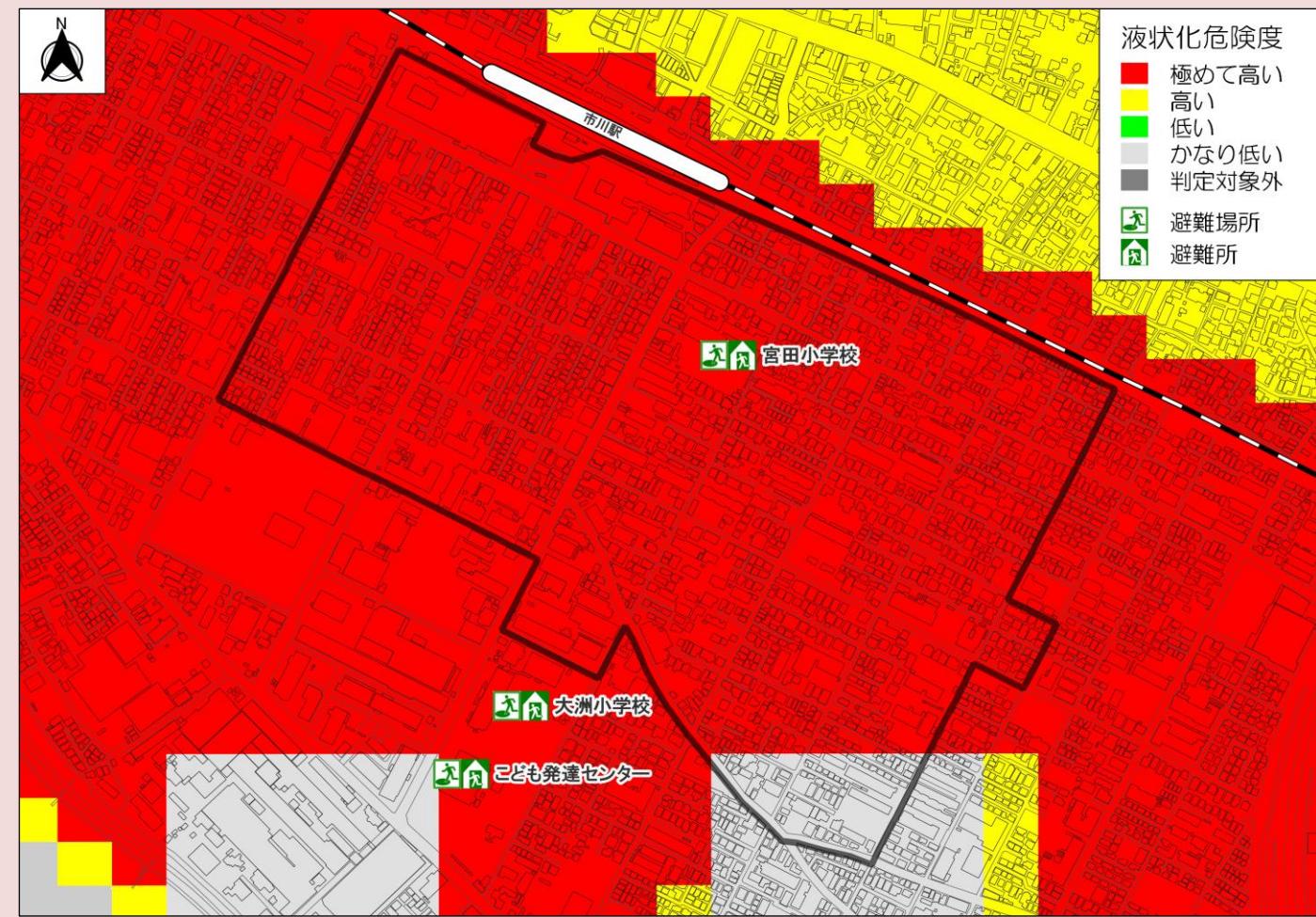
①市全域の震度分布図



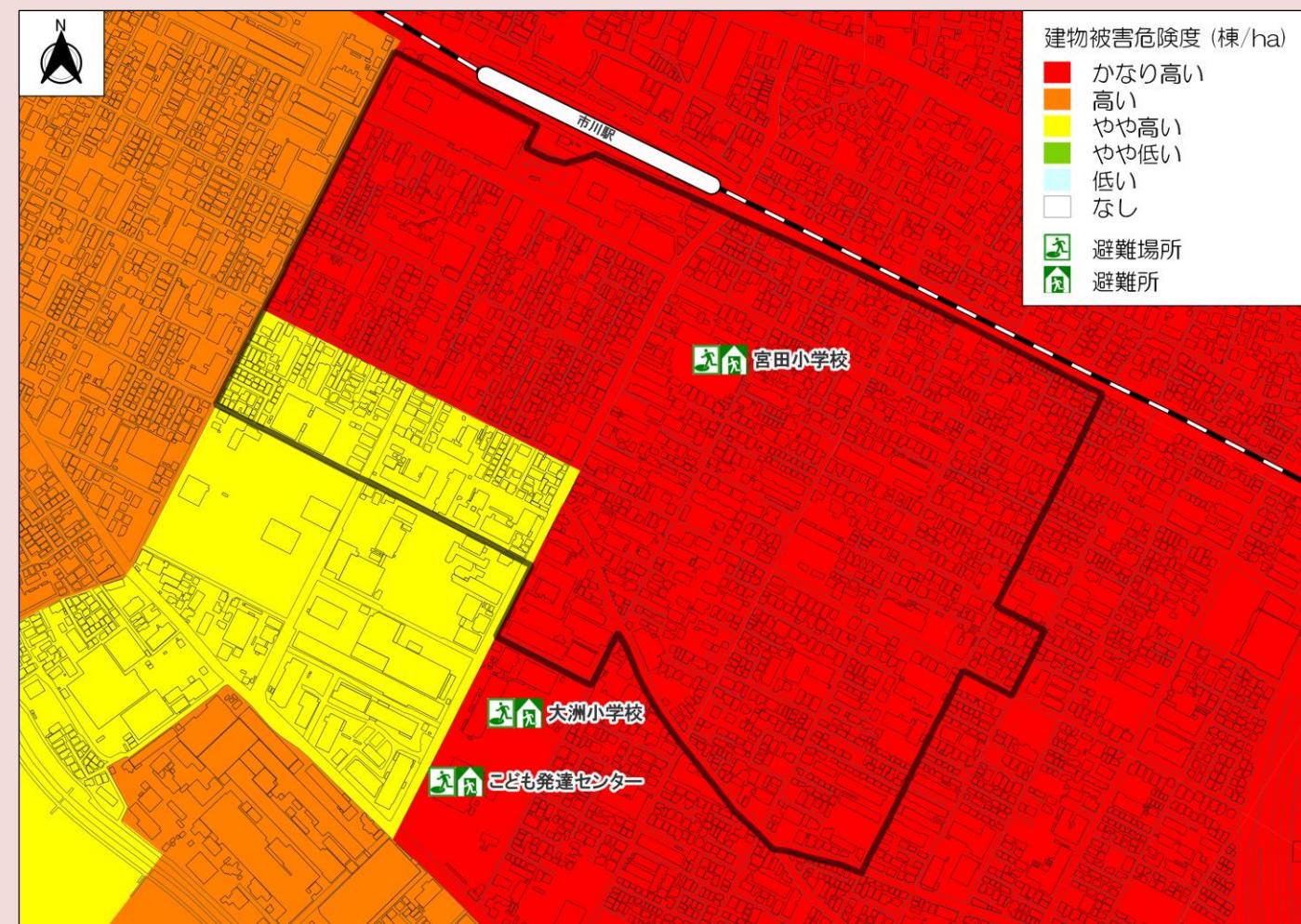
②震度分布図



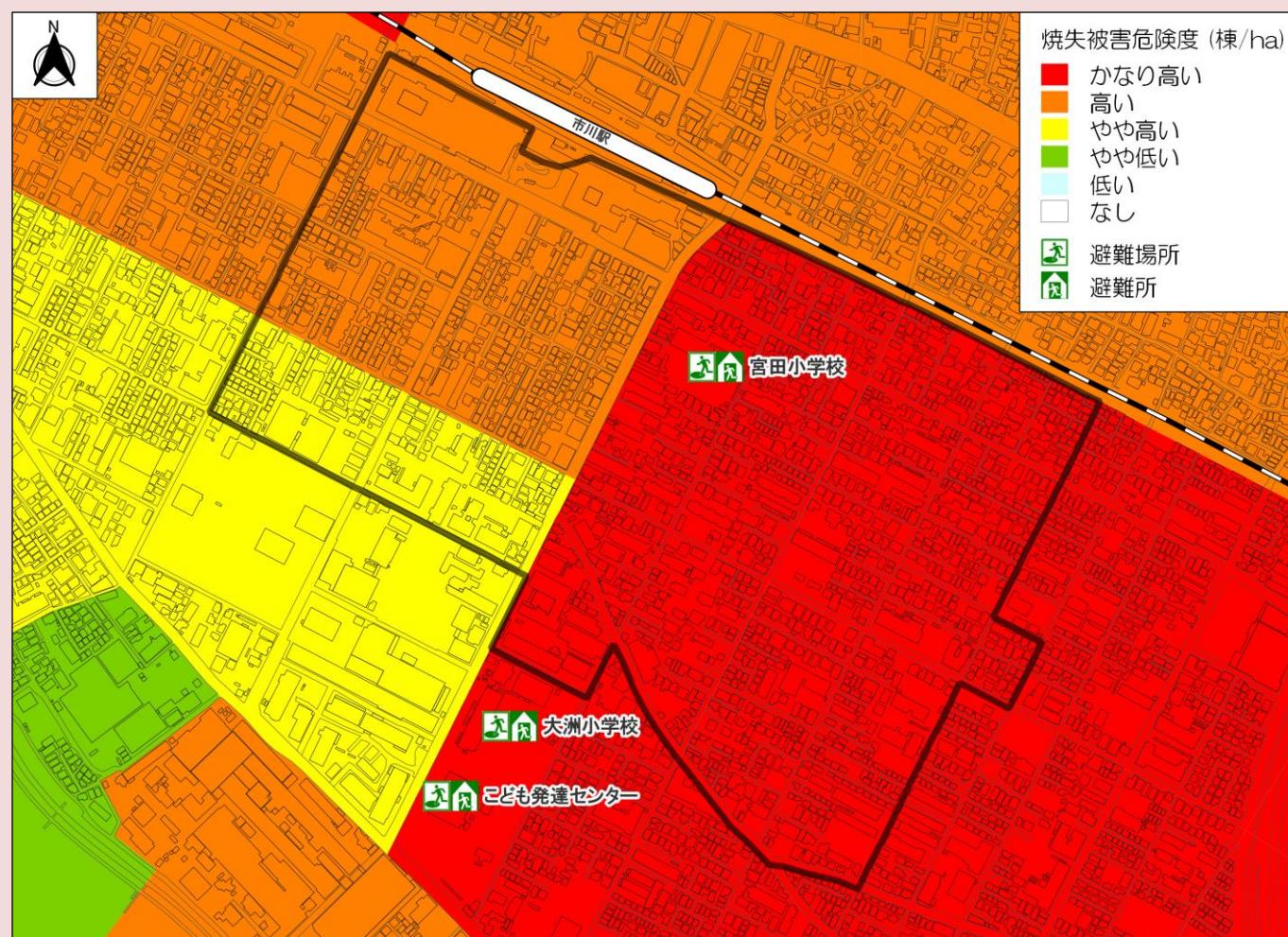
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

水の深さ

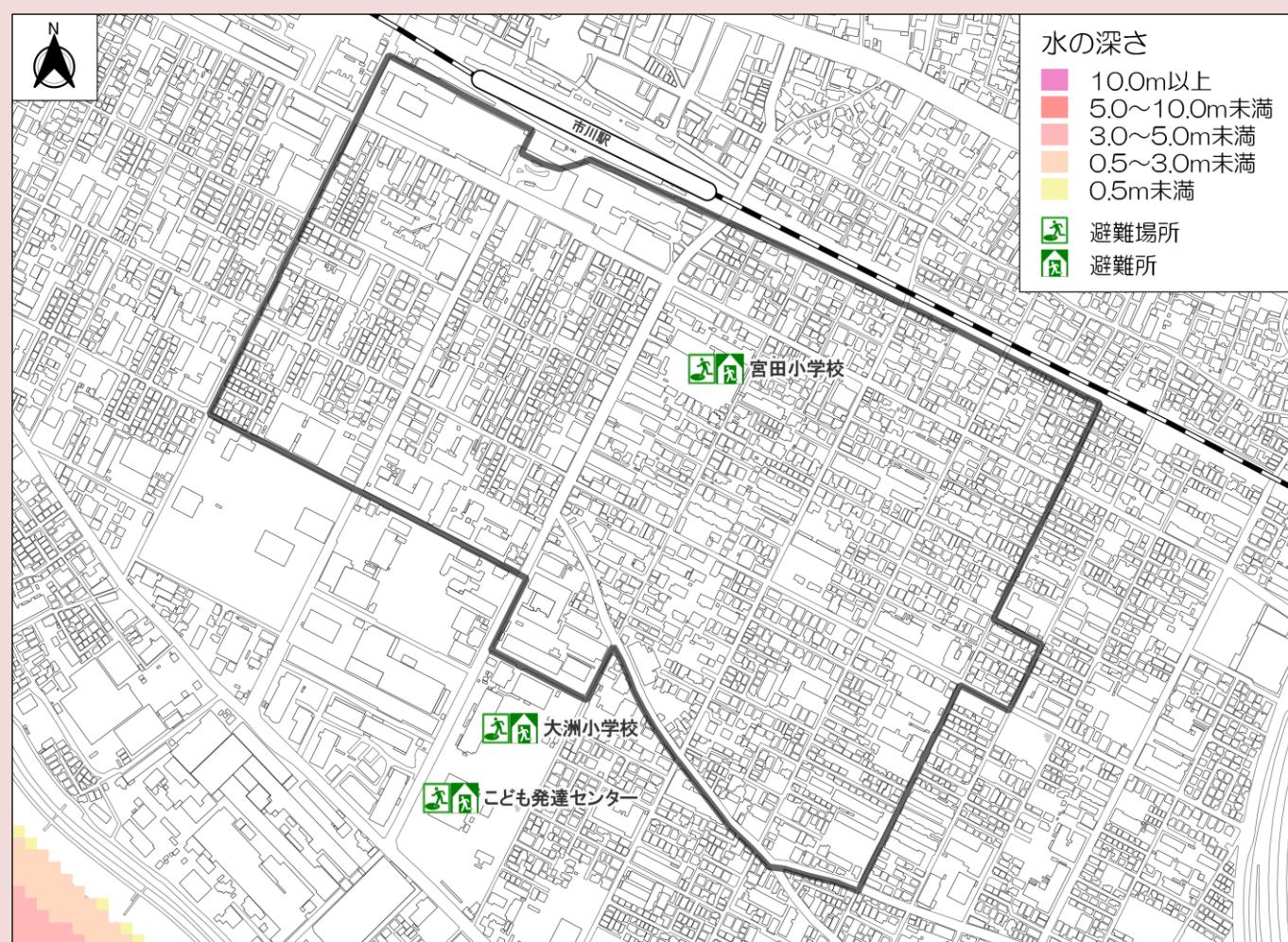
- | |
|-----------------|
| 水の深さが5.0m以上 |
| 水の深さが3.0～5.0m未満 |
| 水の深さが0.5～3.0m未満 |
| 水の深さが0.5m未満 |

浸水の目安



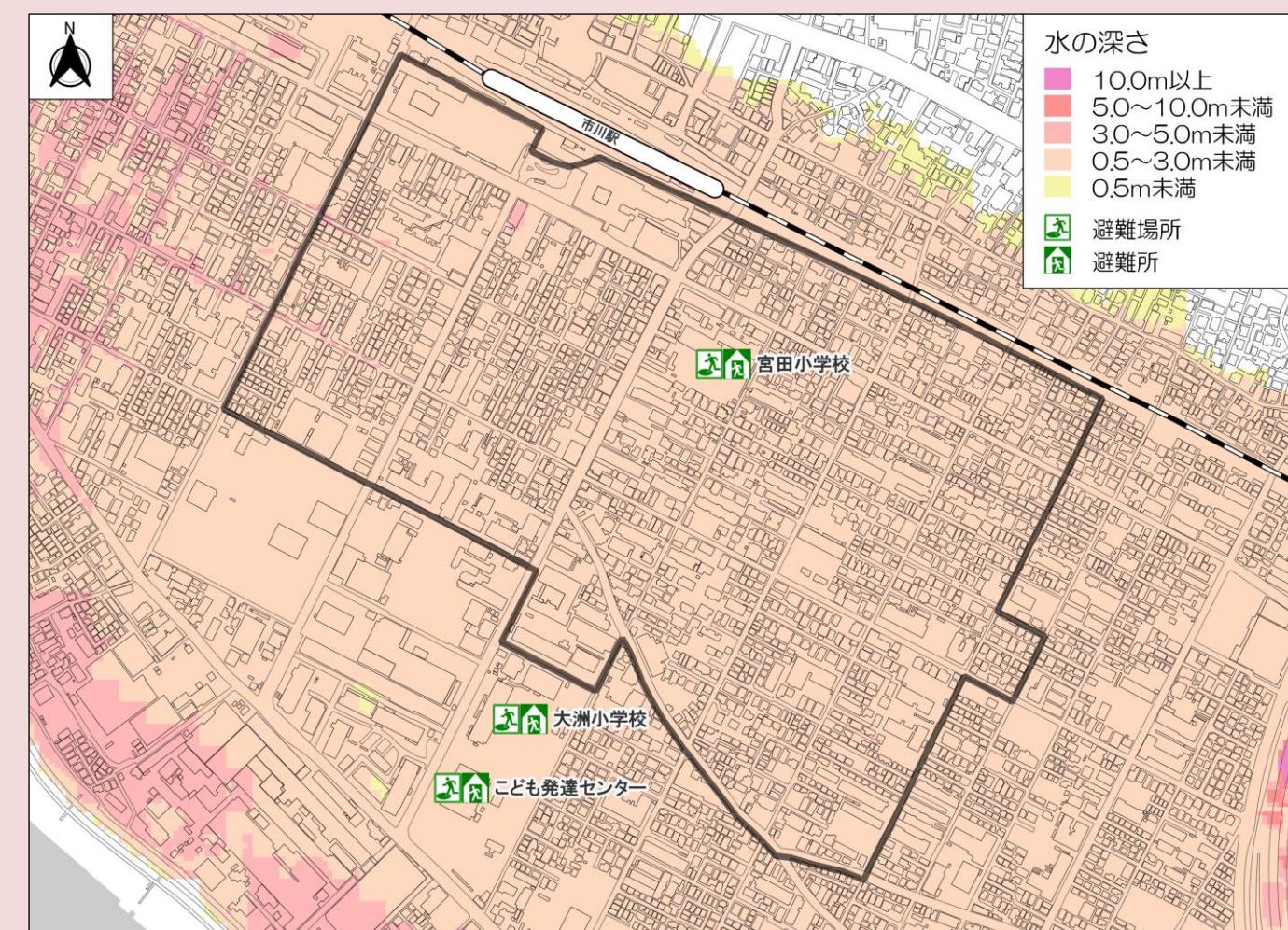
※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

⑧洪水（江戸川）

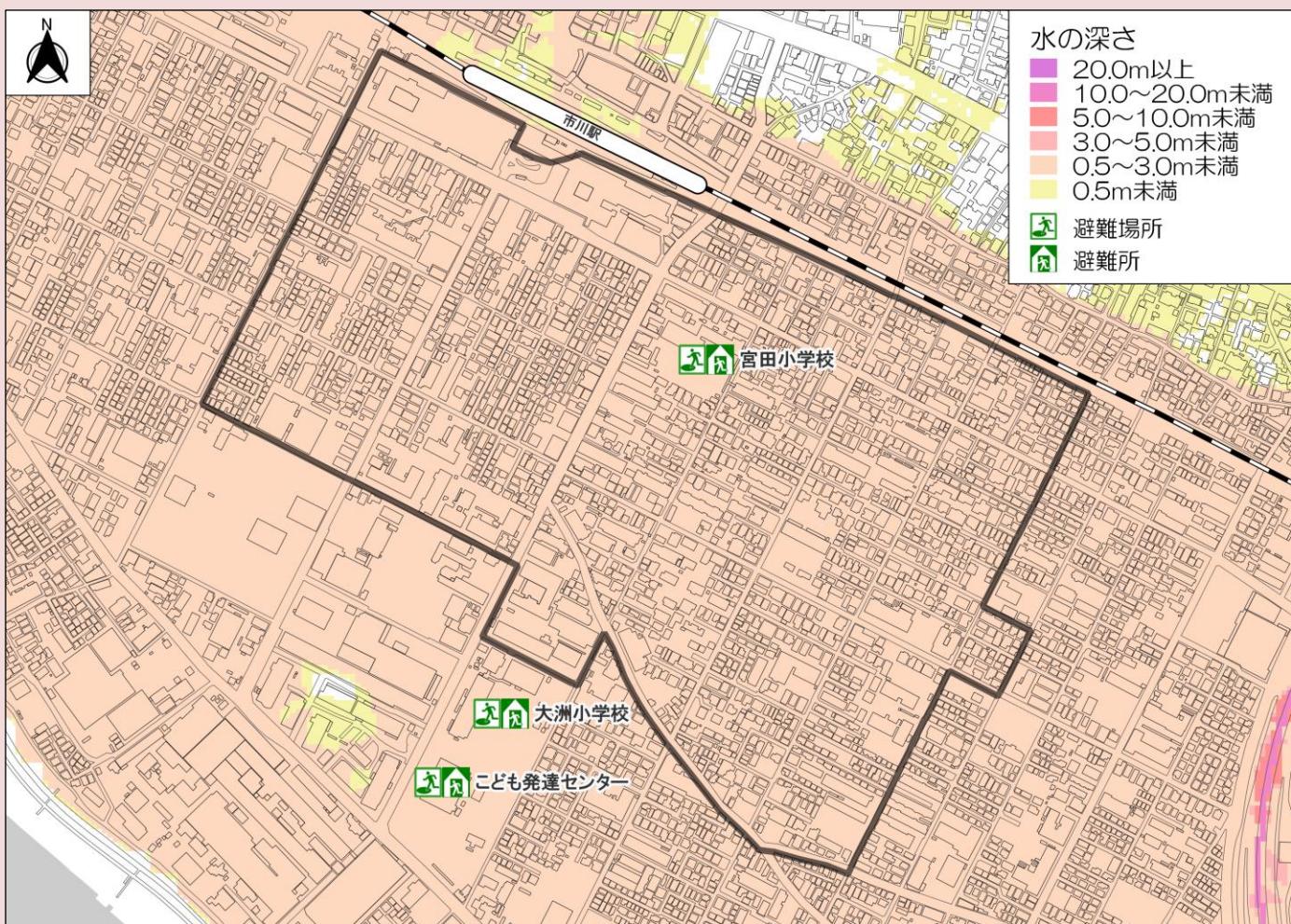


平成29年7月：国土交通省

平成24年4月：千葉県

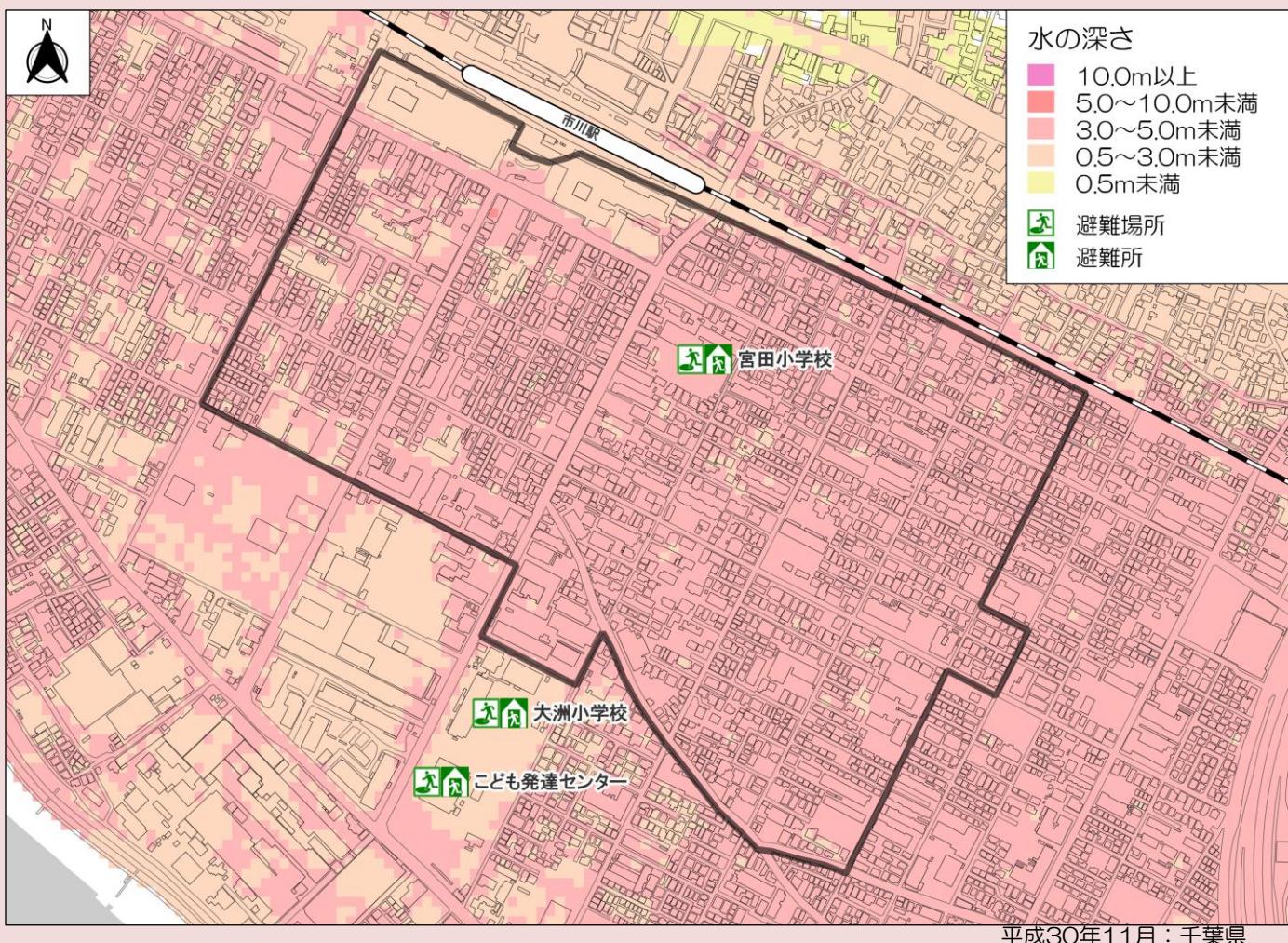
⑨真間川水系・内水氾濫

◆メモ



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県

